

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
6月29日
第96号



トネリコ（モクセイ科）

園の温室の前から講義棟方向を見ると、今白い小花が木を覆っているような姿が目に入ります。日本各地に自生または植栽される落葉高木です。我が国では樹皮を秦皮（しんぴ）と呼び、クマリン配糖体を含み、民間で止瀉、消炎、収れんを目的に使用されます。枝を水に浸して日光に当てると、このクマリン配糖体による青い蛍光が見られます。名前の由来は、枝にカイガラムシ（イボタロウムシ）が付き白ろうを分泌、このろうをトネリといい、溝に塗ると戸の滑りがよくなることから。また、トネリコ属植物の材は、弾力性の富み、バットや弓、杖の材料として使用されます。ハリーポッターの話の中でも、ロン・ウィズリーの杖として、ヨーロッパ原産のセイヨウトネリコが登場しています。なお中国の「秦皮」は、同じトネリコ属のコウヒョウトネリコの樹皮を基原とし、清熱、収瀉を目的に使用します。

セイヨウトネリコ（オトギリソウ科）

第二圃場では、今、町中でよく見られるキンシバイに似た黄色の花が見られます。ヨーロッパ、北アフリカ原産で、英名はセントジョーンズワート、「聖ヨハネの草」と呼ばれ、魔よけの他、傷や火傷、神経痛に対して外用や鎮静剤として利用されてきました。近年では、地上部のエキ스가うつ病に対する機能性食品として利用され、いくつかの臨床試験でも有効性が認められています。一方で、大量に食すると光過敏症を発症するほか、薬物代謝酵素CYP3A4を誘導し、多くの医薬品の効果を減弱させることが知られていて、薬との飲み合わせに十分な注意が必要です。

園の外周では**アガパンサス**の花が沢山咲いてますよ！